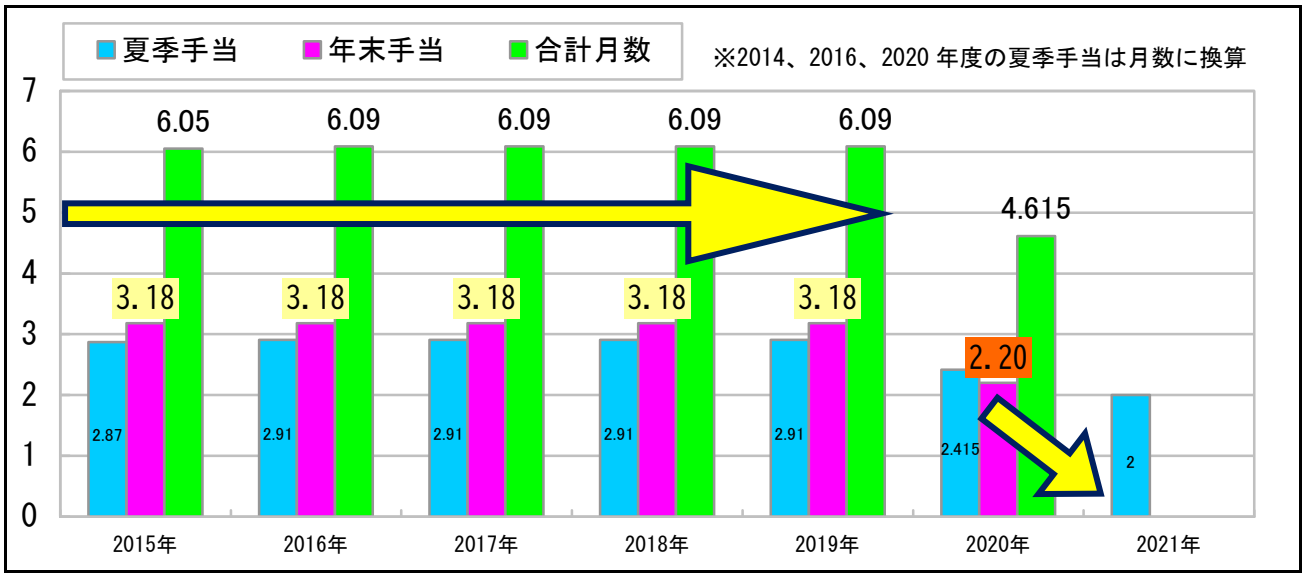
HPはこちら

東日本ユニオン NEWS

ＪＲ東日本労働組合
発責　教育・広報部
2021年10月28日 №369

過去最高の業績でも、ボーナスは上がらなかった

経営側は「支払い体力はある」としながらも、８期連続で「増収増益」「過去最高」の業績が続く中、期末手当は安定的に支給するとし、年末手当は2015年からの５年間は「3.18ヶ月分」と支給額を抑えてきました。



この間、期末手当の団体交渉において経営側は「期末手当が月の生計費の補填になっているということは認識している」「安定的な支給で社員の生活の安定につながる」「当社は会社業績が支給額に連動するような支給判断はしていない」と述べていましたが、昨年度の期末手当の支給実績は上記のグラフのようになっています。

2021年度夏季手当の団体交渉で経営側は「まずは赤字から脱出することで社員の安心につながる」と述べていますが、会社だけが「黒字」になっても、働く社員の生活費が「赤字」になるようではいけません。コロナ禍でのマスクや消毒液の購入で出費がかさむのに輪をかけて、原油価格の高騰などから生活に関係する光熱費や生活必需品等の値上げが続いています。また、賃金が減っているのに反比例して、様々な会社施策により労働密度は上がっています。

会社の発展だけでなく、社員の「安心・安定」した生活の担保が両輪でなくてはなりません！

今こそＪＲで働く者同士、力をあわせて年末手当要求実現をめざそう！